

心豊かなサービスを

西区事業所
管理者 黒岩 剛史

この度、平成27年度の人事異動にて「居宅介護事業所 大阪市手をつなぐ育成会」の管理者に着任しました黒岩剛史と申します。よろしくお願いいたします。

現在、西区に事業所を設けていますが、5月に事業所を港区に移転する予定です。この引越しを無事完了させ、居宅事業所のサービス向上を目指して頑張りたいと思います。

先日、法人内研修で久しぶりに「接客マナー」を学びました。忘れていた基本姿勢を学べたかと思えます。その中で、「心のこもっていない対応はすぐに人に伝わる」といった内容のお話があり、ビジネス感覚が問われることが多くなった社会こそ、福祉サービスにおいてより一層の心がこもっているサービスが重要と感じました。では心がこもったサービスをするにはどうしたらいいかと考えますと、「心の豊かさ」をスタッフが持つておくことかと思いました。心が豊かであれば想像力をはたらかせて利用者やヘルパーの立場になり、調整に繊細な配慮やいろいろな視点でのサービスが考えられると思いました。言うは易しで、実際は西区事業所にきて、事務的な業務に追われていることが分かりました。これでは繊細なサービスどころではないと感じましたので、今後、事務業務の効率化を図りたいと思っています。また、同時に日々のヒューマンエラーの極力の防止を目指し、カバー力、チェック体制等の策を練って実践したいと考えています。

ヘルパー派遣の仕事は調理や清掃、通院、余暇の遊びに出かけるなど、生活や人生を楽しむ事に直結しています。利用者がどれだけ安心してどれだけ気持ちのいい瞬間をいっぱい感じていただけるかが重要と考えます。そのため、スタッフは利用者の特徴や好み、楽しみを想像しながら、見合った場所や付き添い方法、ヘルパーの人選を広い視点から考えられることが要るかと思えます。そのためにも、一人のスタッフだけでなく事業所スタッフ一同、他事業所や地域の連絡会、社会情勢等のつながりを持ちながらアイデアを出し合って、より安心と楽しい時間の提供を目指したいと思います。今後とも、皆様からのご助言、ご指導のほど、

よろしくお願いいたします。

会員向け勉強会に参加して

東成育成園支部 中島 由紀子

3月の勉強会はF B M研究会の大島昇代表にお越し頂き「バランスボール講習会」を行いました。

F B M (ファシリテーション・ボール・メソッド)とは、空気量を調整した柔らかいボール=F B (ファシリテーション・ボール)を媒介にした「からだ」への教育的アプローチです。F Bによって重力の負荷が軽減されることを利用して動きやすい環境を作り、心身のリラクゼーションを促したり感覚運動機能を刺激したりします。

使うボールは空気を沢山入れません。あまり空気が入っていないものを使い、身体をボールに密着させることで安定感を感じ、緊張を緩めることができます。

お持ち頂いたボールは耐荷重が300kg、破裂防止機能のある柔らかいもので、直径20cmくらいから95cmまであり、身体の大きさや用途に合わせて使い分けます。小さいフニャフニャのボールを椅子の上に乗せて座るだけで良い姿勢を保持するのに役立ちます。

この日はどのようにボールを使えば気持ちよく身体を動かせるかを体験しました。ボールにバランスよく腰掛けた後、ボールを前後に動かして背中や腰を伸ばしたり、2個のボールの上に横たわると身体がフワフワと浮いた感じでリラックスできました。その後は2人1組になって1人がボールの上でうつ伏せになり、背中にもう1人が手を置くと、ボールに身体を預けた解放感と手のぬくもりが感じられて心地よかったです。



F B Mは主に障がい児への感覚運動機能の向上や対人関係の改善等に効果が期待されていますが、成人への取り組みも広がっています。バランス感覚を磨く